

放し飼い牛舎で発生したサルモネラ症の清浄化に向けた取り組み：岡山県津山家保 福島成紀

令和 4 年 6 月に管内酪農家の放し飼い（フリーバーン）牛舎で分娩直後の 2 頭が発熱及び下痢を発症。検査の結果、*Salmonella* Muenster（SM）を確認。農場汚染状況を把握するため、全頭及び環境検査を実施。乾乳牛を含む分娩前後の牛（陽性数 / 検体数：13 / 14）、仔牛（3 / 4）及びその飼養環境（6 / 37）を中心に SM を検出。畜主の意向により、治療は抗生剤の一斉投与ではなく保菌牛及び高リスク牛に限定した投与を選択。また、同居牛及び出荷先農場への伝播防止のため毎週検査を実施し、結果を基に畜主、酪農協及び診療獣医師と情報共有し、状況に応じた抗生剤投与、生菌剤等給与、牛の移動及び清掃消毒対策を実施。その他、野生動物の侵入防止、共用水槽の洗浄効率化及び老朽化した仔牛ペンの改修により感染要因の排除に努め、発生から 7 ヶ月後に仔牛及び水槽、9 ヶ月後に成牛及び全環境から SM 検出せず清浄化を達成。